

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第78号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議専務理事(事務局長) 芝 忠
 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F
 TEL045-633-5142 FAX045-633-5194
 Email:iguren@kanagawa-iguren.com
 http://www.kanagawa-iguren.com

米沢電機工業会を訪問

芝 忠

1月に関東学院大学の調査事業の一環として、NHK大河ドラマ「天地人」の主人公直江兼続で盛り上がっている上杉藩の街、米沢市の電機工業会を訪問した。

「米沢電機工業会」とは異業種連携で長らくの付き合いである。例年開催される「賀詞交換会」に合わせてお邪魔したが、裏話では、大変な景気悪化のため、この賀詞交換会を開催すべきかどうか議論になったそうである。行政や大学、支援機関、マスコミ等が多数参列する中で、開会挨拶を行った青木会長が不況に対処するためにも「交流することが必要だ」と改めて「賀詞交換会」の意義を強調したことの新鮮さを感じた。来賓の阿部米沢市長は市内の雇用や中小企業の経営危機に対処するため、「緊急経済対策本部」を12月中旬に設置して、「対策」を発表（これは神奈川県より早い）、内容を説明した。行政のスピードが問われる時代だ。

訪問先は市役所、商工会議所の他、2社と第1線を退いている大先輩の経営者。この先輩は「不況というのは経営をやっている以上、何回も過去に経験した。今は右往左往しないで、どういう手を打つか、しっかり考えることだ」。自らも2日間、太平洋側の元気企業を訪問したそうである。この先輩は20年まえの不況のとき、仕事が無くなって、従業員300名をかかえ、万策つきて自殺しようと考えたことを聞いている。その後大きく立ち直ったわけだが、今回は後継の社長に距離をおき、わざと自分で考えさせているようだ。

訪問した2社ではいずれも仕事量の激減の中で、開発体制の強化を行っていることが注目された。1社は過去にも自社製品を多種発表してきたが、開発資金や製品の全国的メンテナンス体制に課題があった。また「下請」は親企業の評価次第では自社開発が実らないこともある。もう1社では不況下の半導体関連企業がすでに新しい開発装置の発注をかけていることが判明。この場合も前からの開発研究が重要だという。今回の不況でも「暇だから」開発に人員を投入したという。人員整理は行わない。自社独自の研修設備を使って主任クラスが多数集まって受講していた。

米沢は電機・電子の下請企業的一大集積地である。今回の不況で、すでに下請同士の統合や再編が行われている。派遣工員の大量解雇の次に4月から正社員のリストラが始まると予測されている。行政もかつてないほど緊張している。われわれも足元を見直そう。

産学官交流サロンのコーナー

第19回(月日)西湘サロンの報告

吉池正樹 BC

今回は、西湘サロン開催3周年記念3シリーズの「第2弾！」として、社団法人小田原青色申告会 業務部長 山口剛史氏に、話題「何故売上が伸びないか？」で、税申告指導を通じてのお話をいただきました。企業はパラダイムシフト（環境の変化）を読み、これに適応して売れる仕組み造りをする事で、いわば、「環境適応業」だそうです。去年から今年にかけての経済環境激変の時、機を得たお話でした。

おなじみ尾上町サロン

日時：原則第一・三金曜日（4月3日、17日）17:15～ 3月20日は祭日のため中止します。

会場：神奈川中小企業センター5階異グ連事務所

会費：1000円（現物も大歓迎）

連絡問合せ：神奈川異グ連事務局 芝、島津龍男、八幡、鈴木 045-633-5142

第20回西湘サロンの開催案内

日時：2009年5月11日（月）18:00～20:30

場所：あいおい損保小田原支社（瀬戸ビル）3F

話題：サロン開設3周年記念シリーズ第三弾
「本格的生産に入った地ビール“ハッピーモルト”」

横山酒店 横山 智丈氏

参加費：1000円（ビール、おつまみ付）

申込：島津俊、吉池、芝 tel 045-633-5142

第5回野毛浮世床（新産学公交流サロン）開催案内

日時：2009年3月25日（水）15:00～20:00

場所：横浜市中区花咲町1 “野毛はな&はな”

第一部：鯨と日本人の深いつながり（欧米人には？）

第二部：おいしい鯨と酒（鯨料理のラリー）

参加費：二部は¥3000円・3店舗ラリー

定員50名です。

045-651-8883

申込み問合せ：神奈川異グ連 芝、緒方、杉本

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

SAARC (南西アジア) 輸出競争力強化研修が終了 南西アジアプロジェクト事務局 加藤文男(C&S)

先月号で既報の通り、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 横浜国際センターから、当神奈川異グ連への受託事業の「**南西アジア域内輸出競争力強化研修**」を実施していたが3月6日をもって2週間の研修を終了した。

研修内容は、中小企業振興に関する講義や中小企業に関連する施設の訪問、中小企業への視察などを実施した。講師は、芝専務理事をはじめ、各企業において日本の産業の発展に貢献してきた経験豊富な異グ連のメンバーが担当した。講義内容は、日本の産業発展の歴史、財務管理、異業種交流活動、日本企業の特徴、日本の水産業の現状、小さな工場から大企業へ発展したコマツ、印刷産業の現状と今後 など経営の基本から戦後の日本が大きく飛躍した要因となった事柄など研修生の国に参考になることがらを広く紹介し、解説すると共に各国の課題について討議し、検討する時間を設けた。

中小企業振興の関連施設では中小企業の支援機関である**神奈川産業振興センター**及び**神奈川県水産技術センター**を視察訪問した。神奈川産業振興センターでは、アドバイザー派遣や経営相談事業などの主要な機能を解説していただくと共に、館内のインキュベーションルームをはじめ、各事務所を巡回訪問し、その活動の実態を視察した。研修生からは、国に帰ってこのような機能を持った施設をぜひ作りたいとの感想が聞かれた。水産技術センターでは、海流などの調査やサザエやあわびの稚貝を育て放流などの機能の説明を受け、養殖する様子を視察した。

中小企業の実態視察では、精密機械加工業の**㈱開明製作所**様、金属製品加工業 **㈱セプトワン**様、プレス板金加工及び精密機械加工業 **㈱ベイテック**様、印刷業 **㈱神奈川機関紙印刷所**を訪問した。各企業において事務所内に経営理念や5Sの掲示がなされ、その実践される状況をつぶさに見て大変関心を示した。工場視察する中で社長さんが機械加工をする従業員の肩をたたき、気軽に話をされる姿を直接見て、大変驚いていた。

今回の研修に当たって研修生は、それぞれの立場の課題を持ち寄り、最終日には日本で学んだことを反映したアクションプランを作成し、報告会をもって終了した。研修生といっても、それぞれの国で産業振興、輸出振興、中小企業振興などに携わるエリートである。研修生の間でお互いに情報を交換し合い、アドバイスをしようという新しいネットワークが作られた。今後、相互の支援で大きな効果が期待される。最終日のフェアウェルパーティには、スリランカの女性の研修生がサリーに着替えて参加され、華やかななか、和やかで意義のある研修が終了した。

*参加国：スリランカ、ネパール、ブータン、アフガニスタン

本プロジェクトは、2009年度も継続されることが決定しており、南西アジア諸国の中小企業振興への貢献が期待される。今回訪問させていただいた施設や企業の皆様には、ご多忙な中、何度も打ち合わせにご協力していただきと共に、工場ご案内、質疑応答などに丁寧にご対応をいただきました。

皆様のご協力に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

南西アジア研修事業に参加して

魚崎誠也(C&S 会長)

2月17日(金)から3月7日までの主題の研修に参加した一部の話である。南西アジア8カ国のうち4カ国5名の研修生が日本の競争力の高い要因を体験する事業で、JICA 横浜から異グ連に委託され事業である。参加した国は、アフガニスタン、スリランカ、ネパール、ブータンの4カ国であった。スリランカからは、日本での経済産業省の部長に相当する、朗らかなM女史も参加していた。

筆者は2月27日に、精密部品の製造業であるK社に研修生を案内した。当日、午前中、大企業と中小企業の下請け関係などと、K社の内容、規模、社長のお人柄などを講義して、午後、K社にJICA 横浜から、マイクロバスで向かった。

K社もこの不況で、当日を休みにしていたのを訪問したことになった。半年前にお願いがあがったときと様変わりの状況であった。申し訳ない気持ちでいっぱいであった。研修生は、午前中の筆者の講義と、現実の厳しさにびっくりしただろうと想像した。

I社長は、環境問題にも関心が高く、環境宣言を社内に掲示するほど熱心に社会貢献をモットーとされた方であった。研修生は、予め展示してもらっていた精密部品の素晴らしい品物を、物珍しく見入っていた。指先ほどの部品が一個5万円もすると聞いてびっくりしたのであろう。

その後、環境問題の話になり、南極の氷が解け、スリランカも国が小さくなるという話になった。

M女史は、I社長の心配を含めた話に対し、大丈夫、半年もすれば、景気は回復すると慰めるシーンもあった。

最後は、温暖化で海面が上がったら、ネパールから来たバスネットさんのお家に皆が避難することになるだろうという、大笑いのお話で終わった。

まんてんプロジェクト

千田BC

- 2月24日、まんてんCAD・CAM部会がスタートした。航空機分野でデファクトスタンダードになっている従来のCAD/CAMソフトと互換性があり安価なソフトの導入を検討する。まんてん部会は先月スタートしたJISQ9100部会に次いで二番目である。
- 東京都の航空機産業参入支援の一環として航空機関連企業の見学会に参加した。
- 新潟県と栃木県において、航空宇宙産業参入とまんてんプロジェクトの事例を発表した。いずれも県の工業試験所と産業支援センターの主催になるもので、それぞれ、県として航空宇宙産業を重視し、関連企業の活性化を高める為にまんてんプロジェクトが招待されたものである。
- 平成20年度中小企業IT経営革新支援事業の共通XML/EDIシステム実証実験に「まんてんEDI」プロジェクトとしてCOXEC傘下で開発していたシステムが完成し最終検査が終了した。中小製造業がブラウザだけで利用できるSaaS ASPによるEDIシステムであり、今後の実用化に向けた検討を開始することとなった。
- 本年6月パリにて開催されるエアショウにまんてんプロジェクトが出展することが決定した。我が国の中小企業が海外のエアショウに出展する最初の事例である。

第93回(月日)日韓ビジネス協議会定例会報告

高橋導徳BC

- 企業紹介/ビジネスマナー・美容関連 (有)ナムグローバル代表取締役 岩尾加寿美氏
横浜から「選ばれる人」をめざし2003年創設、以前は美容関係の仕事が中心であったが、最近では外見要素の改善を含めた企業研修を強化している。
- 安心財団・中小企業のための共済 (財) 中小企業災害共済福祉財団課長 岩下博美氏
中小企業のための共済事業、ケガの補償、安全の助成、ゆとり健康、事業経営に役立つ「あんしん」のサポートをしてくれる。加入資格は実際にその事業に従事している方で18歳以上であれば年齢に上限がない。
- 「金属加工機械業界と日韓ビジネスの展望」(有)オリエントマシン取締役 平手 陽介氏
世界同時不況の現状では、大手メーカ・研究開発など設備稼働率の低下、設備投資の低下、輸出減少、中小企業の過当競争、機械販売減少、円高、ウオン安など厳しい状態である。韓国への委託加工のメリットの可能性はある。距離が近い、工業レベルが近い、ウオン安などで、課題もあるが良い機会である。工作機械業界の話を中心に韓国ビジネス展開の可能性について説明された。
- メイン講師： 有限会社精美堂 代表取締役 野口 修氏
「メタボ？ あなたは大丈夫ですか？メタボリックシンドロームの裏に隠されている病気の怖さ～」
メタボリックシンドロームは全身に及ぶ合併症の可能性がある。三大合併症は網膜症、腎臓、神経障害でいろいろな病気に影響が生じる。生活習慣病は自覚症状がなく知らず知らずのうちに進行する。「特定健康診査」の受診して早期発見と健診後の生活改善が大切となる。適度の運動と正しい生活習慣をする必要がある。

第94回日韓ビジネス協議会定例会

高橋導徳BC

日時：3月25日(水) 15:00～17:00、懇親会17:15～ 会費：1000円です。

- 第8回韓国商品展示商談会の紹介 (株)コリアワールドトレーディング代表取締役 李 相佑氏
 - 日本企業紹介/栄養食品関連 (株)フォーデイズ販売店 新沼輝彦氏
 - 韓国企業紹介/大韓貿易投資振興公社 三信イノテック株式会社 金氏
 - 「経営者に役立つ心相科学について」 PURISM 代表 島田弘一氏
 - メイン講師：(株)三宝 営業統括部長 橋詰希望氏(米国)、ミストコレクター(韓国)などの紹介
- *関心がある企業の参加者を歓迎致します。

申込先：TEL&FAX：045-311-0094 高橋迄 MAIL：mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

投稿

スリッパの法則

C&S 村上嘉男

この題名は藤野英人という著者がファンドマネージャーを13年やり、その後資産運用会社を設立し、投資対象として多くの企業(約4000社)を訪問し、経営者と話し合った結果の経験則を文庫本にまとめたものである。

「社内では、スリッパに履き替える会社に投資すると、不思議に儲からない」このことは豪雪地帯に本社を置くところや、半導体工場に隣接した本社、食品・医療関連の研究所等は例外で、問題はスリッパを履くという行為でなく、その背後に見える精神、即ちスリッパを履く合理性があるかどうか、会社は家と同じと経営者が意識していればそれは悪しき家族主義で靴を脱ぐことで会社のオープンさが失われ、誰でも自由に出入りできることを遮断してしまうということらしい。北海道でも業績を伸ばしている会社はスリッパに履き替えていない会社が多いそうである。

このことを裏付ける事例か又は逆かどうかわからないが、3月1日朝の報道番組で、建築家で東大名誉教授の安藤忠雄先生の大阪にある建築事務所が紹介されていた。

この事務所内では全員運動靴の上履きに履き替えていた。事務所は5階建てで建物の中央部が吹き抜けになっており、吹き抜けの1階部分に先生の机がある。そしてそこは事務所の入り口と裏口の間中部にあり、安藤先生が机に座っていれば人の出入りが全てわかる。そのため職員が早めに昼食に行こうとしても先生に呼び止められてしまうそうである。また職員に用事がある時はわざわざ電話をしなくても下から上に向かって声をかければ吹き抜けが伝声管代わりになりすぐに呼び出すことができる。事務所の電話はすべて先生の机の後ろに5台あるのみで職員の外部との話はすべて聞こえてしまうので先生が事務所にいる場合は業務の進捗が全て把握できるとか。インターネットができるパソコンは先生の机の後ろにある1台のみなので最近の事務所のようには仕事なのか遊びなのか、パソコンで遊んでいるわけにはいかない。

職員は30名位で普通の事務所では社長の他に2～3名の管理者が必要であるが、この事務所のレイアウトが先生一人での管理を可能にしている。

運動靴はスリッパに比べ機動性に富んでいる、先生の設計の斬新さと徹底した合理性を見て、誰もがなるほどとあざむけることだが、先生だからできることかもしれない。スリッパの法則がかすんでしまう。

早期発見、早期治療も偶然から

相楽 守

編集室の相楽です。昨年暮れから1月末にかけて入院しました。

昨年11月ごろ、家人が通院している近くのクリニックで偶然にも「内視鏡設備あります。胃も大腸も検査できます」を見つけました。7年前に1cmにもならない小さなポリープを内視鏡で取ったことがあり、その時医者は「このポリープは、またできますよ。5年を置かずに検査をしてください」と言われたことを思い出し、早速内視鏡検査をしたところ、1.8cmにもなっている「ポリープ」が発見されました。

入院施設のある某大病院への紹介状をもらい外来を訪ねたところ、医者のチームが、その写真を見て、「内視鏡では1回では取り切れずに、2回の手術になるかもしれない。2度手間よりも1回で切除することをお勧めします」とのこと。

年末に入院し、開腹手術で胃の2/3を切除しました。術後の3日間は寝返りも打てず、夜も眠れず、痛いと感じ七転八倒とはこのことかと思うような状態でした。4日目から、起きて本を読んだり、テレビを見たりの生活ができてほっとしました。

そこで、時間つぶしに有効であったのが、CDでした。友人から借りていた「平家物語」の朗読ものです。1枚が2時間で、たしか、7枚ありましたから、1日に1枚で7日間はこれで、気が紛れました。

正月明けに一旦退院許可に従い退院しました。しかし、術後の傷の直りもまだ良くなく、また胃も正常な状態とはいえ、食べたものが消化できない状態でしたので、退院の2日後には再入院を命ぜられ、それからさらに2週間の病院生活を過ごすこととなりました。そこでもまた4日間、飲食禁止（絶食・絶水）で点滴のみ、という生活でした。食事の時間が来て、周囲の人は食べるときに、自分には何もこない日が4日間、これは辛いですよ。やっとお粥が食べられるときはうれしかったものです。その後は順調に回復し、再入院してから2週間後に退院しました。最初の入院から33日は経過していました。

医者は、「あなたは、早期発見、早期治療でよかったですね。手術で悪いところを全部取りました。病理検査の結果、第1ステージでした。今後は月1回くらい外来に来てもらいます。」とのこと。後の憂いがなく助かったと感じました。

退院後は回復が順調のようです。今後は、いつ酒がおいしく飲めて、テニスも思い切りできるか、健康のバロメーターになると思います。何よりも**健康第一、早期発見・早期治療が肝要**だと思ひ筆をとった次第です。

神奈川県異業種グループ連絡会議 交流アドバイザーが詰めております、気軽にご連絡ご相談ください（無料）

【月】 魚崎 誠也 村上 嘉男 【火】 八幡 敬和 児玉 英二 【水】 芝 忠 杉本 明子

【木】 八幡 敬和 松井 利夫 【金】 島津龍男 芝 忠 織方盛男 【土、日、祭日】は休業です。

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5階

神奈川県異業種グループ連絡会議事務局 TEL 045-633-5142 FAX 045-633-5194

URL : <http://www.kanagawa-iguren.com> e-Mail : iguren@kanagawa-iguren.com

皆様からのご投稿をお願いいたします。(会報編集担当) mail t-onogawa@pro.odn.ne.jp 小野川へお送りください。
神奈川異グ連への連絡問合せは、上記事務局当番者 tel 045-633-5142 fax 045-633-5194 へどうぞ!